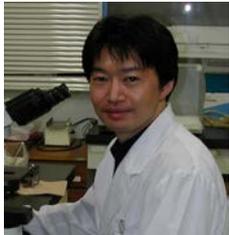
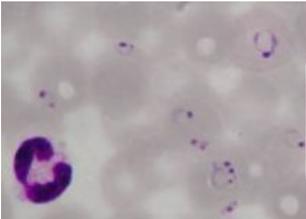


整理番号	HT27059	分野	医歯薬学	キーワード: 寄生虫、アレルギー
------	---------	----	------	------------------

群馬大学

寄生虫感染で変化する免疫体質を観察しよう

先生(代表者)	鈴江 一友(すずえ かずとも) 大学院医学系研究科・講師			
自己紹介	<p>学生時代はアルバイト三昧でした。その稼ぎで貧乏旅行に。国内は全都道府県、海外はアジアを中心に 30 カ国ほど。色んな人がいて、色んな価値観を持ち、みんな明るく一生懸命生きていることを知りました。あれ？大学では何してたっけ？(笑)</p> <p>今は寄生虫学と免疫学とに足場を置いて研究しています。感染症が流行する国々は貧しい。かたや先進国では 30%を上回る人がアレルギーに悩んでいる。人々の命・生活・笑顔に貢献できることを夢見ながら日々を過ごしています。好きな本は宮沢賢治「グスコーブドリの伝記」。</p>			
開催日時・主な募集対象	平成27年8月26日(水)	(対象)	高校生	(人数) 20名
集合場所・時間	群馬大学(昭和キャンパス) 医学部基礎研究棟 4F 実習室	(集合時間)	10:00 am	
開催会場(集合場所)	<p>群馬大学 昭和キャンパス 医学部基礎研究棟 4F 実習室</p> <p>住所: 〒371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-22</p> <p>アクセスマップ: http://www.gunma-u.ac.jp/html/access_0.html</p>			
内 容				
<p>「おれ、すぐに風邪ひいちゃう体質なんだよー」「私はすぐにお腹を壊しちゃう体質なの」・・・体質って人それぞれですね？ 私たち人間は、たとえどれだけ日常生活を清潔に過ごしている人であっても、目に見えない微生物や寄生虫に囲まれた中で生活を送っています。そしてそれらの存在は、私たちの体質を形成する重要な「環境因子」の一つとして、私たちに大きな影響を及ぼしていることが最近分かってきました。先進国に住む私たちにはすっかり縁遠くなってしまった寄生虫ですが、私たちの環境因子からこの寄生虫を失った結果、先進国に住む人たちの体質にどのような変化が起こってしまったのでしょうか？先進国に住む人々を悩まし続けているアレルギーは、免疫体質の変化がその発症要因の一つに挙げられています。マラリア原虫という寄生虫に感染したマウスを観察しながら、「環境因子としての寄生虫」について一緒に考えてみませんか？そして最新の研究結果を紹介するので、それぞれ自分の体質についてみんなで考えてみましょう！</p>				
  				

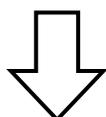
スケジュール		持ち物
9:30～10:00	受付(昭和キャンパス 基礎研究棟 4F 実習室)	筆記用具 (着替え)
10:00～10:20	開講式(あいさつ・オリエンテーション・科研費の説明)	
10:20～11:05	実習「寄生虫に感染すると免疫体質がどのように変わる？」	特記事項 実際にマウスなどの実験動物を観察するため、これまで生物の解剖などで気分が悪くなった経験のある方は事前にお知らせください。 服に動物のにおいが付くことがあります。 気になる人は着替えを持参してください。
11:05～11:15	休憩	
11:15～12:00	講義「免疫のしくみと寄生虫について」	
12:00～13:00	昼食・休憩	
13:00～13:45	実習・講義「寄生虫は私たちにとってプラス？ マイナス？」	
13:45～14:00	休憩	
14:00～14:45	実習・講義「多種多様な寄生虫を観察しよう」	
14:45～15:40	クッキータイム・ディスカッション	
15:40～16:00	修了式(アンケート記入、未来博士号授与)	
16:00	終了・解散	

《お問い合わせ・お申し込み先》

所属・氏名：	群馬大学 大学院医学系研究科 国際寄生虫病学 鈴江 一友(すずえ かずとも)
住所：	〒371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-22
TEL 番号：	027-220-8023
FAX 番号：	027-220-8025
E-mail：	suzue@gunma-u.ac.jp
申込締切日：	平成27年7月31日(金)

《プログラムのテーマと関係する科研費》

研究代表者	研究期間	研究種目	課題番号	研究課題名
鈴江 一友	H20-22	基盤研究 (C)	20590421	感染増悪を導くマラリア免疫応答の分子的解析
鈴江 一友	H16-17	若手研究 (B)	16790243	マラリア防御免疫記憶の分子学的解析
鈴江 一友	H14-15	若手研究 (B)	14770107	マラリア感染による獲得免疫の生成と維持の分子メカニズム



★この科研費について、さらに詳しく知りたい方は、下記をクリック！

<http://kaken.nii.ac.jp/>

※国立情報学研究所の科研費データベースへリンクします。